Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-09-25

災害展示の方法を考える ： 人と防災未来センター資料室の取り組みから

兒玉, 州平

(Citation)
歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集,10:7-14

(Issue Date)
2012-01-29

(Resource Type)
conference object

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81003757

災害展示の方法を考える

人と防災未来センター資料室の取り組みから

兒玉　州平

（人と防災未来センター震災資料専門員）

1

Ⅰ　人と防災未来センターのミッションと資料室の業務

2

人と防災未来センターとは

- 2002年開館
- 阪神・淡路大震災のメモリアル施設。
  - 阪神・淡路大震災の経験を語り継ぎ、その教訓を未来に活かすことを通じて、災害文化の形成、地域防災力の向上、防災政策の開発支援を図り、安全・安心な市民協働・減災社会の実現に貢献する。
  - このため、震災の展示を通じて防災の重要性や共に生きることの大切さを広く市民に訴える。また、実践的な防災研究や防災を担う人材の育成、災害対応の現地支援、多様なネットワークを通じた連携などを、展示を含め一体のものとして推進し、知恵や情報の効果的な創出と体系化を進め、共有を促進する。

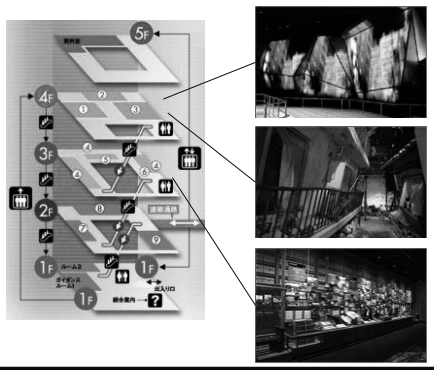
3

人と防災未来センターのミッション

人と防災未来センターホームページより

4

人と防災未来センターの施設内容



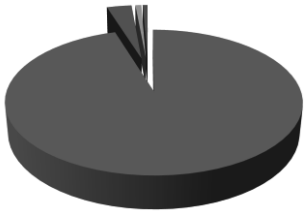
5

資料室の位置

- 人と防災未来センターの一部門として「震災資料」の収集・保存・活用を掌る。
- 震災資料は一次資料と二次資料からなる。
  - 一次資料は被災から復旧・復興の過程で実際に使用された「生の」資料
  - 二次資料は刊行物を中心とした資料。

6

資料室で所蔵する資料群



二次資料点数35,333点

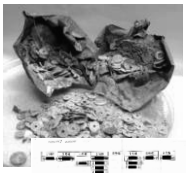
図書	12,006
雑誌	16,984
チラシ類	1,426
VHS・DVD・CD等	785
その他	4,132

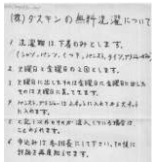
一次資料点数176,855点

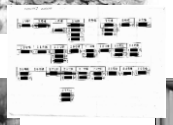
紙資料	168,390
写真資料	5,889
モノ資料	1,420
映像・音声資料	1,156

7

一次資料の一例







資料室所蔵資料の特長

- 一次資料の存在
  - 被災地内部から、被災地で生み出されたさまざまな資料を大量に所蔵。
  - 作成団体・地域・年代は多岐にわたる。
    - （ほとんどは民間出所の資料）
- 資料室は、阪神・淡路大震災被災地（仮設住宅や復興住宅等の設置地域も含む）という地域で生み出された震災資料の包括的な所蔵機関として存立意義を持つ。

9

展示と資料室とのかかわり

- 人と防災未来センターの展示品は、ほぼ全てが資料室で所蔵する一次資料（約800点）。
- 人と防災未来センター資料室は、地域で生み出された、民間出所の資料展示施設。
  - （ただし、展示資料の選択、ディスプレイ等は資料室の所管ではなく、別部署）。

10

Ⅱ　資料室業務としての展示の試み

11

センター展示に対する違和感

- 展示は1995年1月17日5時46分からはじまる。
- 展示する地域に対する説明はない。

12

13

地域への言及の必要性

- センターは、震災時という特殊な時期に限ってはいるが、地域で生み出された民間出所の資料を収集保存するとともに、展示している。
  - 震災時という特殊な時期の資料を収集していることを除けば、地域資料館・博物館etc.と業務として大きな差異はない。
- もし、地域資料館や博物館で所蔵資料を展示するとすれば、その地域がどのような地域であるかについての言及は不可欠なはず。

14

（無理な）一般化

- にも関わらず、災害という特殊な状況を扱うことから、防災を全面に打ち出すために、阪神・淡路大震災の事例を一般化する必要性。
  - 災害を対象とすることで、無理に一般性を持たせている印象。
- むろん防災意識の向上も必要不可欠ではあるが…。
  - 人と防災未来センター以外の災害展示施設の多くも同様の構成。

15

では、災害と地域性とは無縁なのか。

16

災害にとって地域とは？

- （例）なぜ長田区で外国人被災者が多いのか
  - 長田区の少なくとも近代以降の歴史の中で産業構造の変化、神戸市における位置の変容などを知らなければ説明できない。
- （例）地域における被災度の差異

17

災害にとって地域とは？

- （例）復興過程でのまちづくり協議会等の関与のあり方
  - 真野地区、尼崎市築地地区など
- （例）マンション、集合住宅などの再建問題
- 地域のあり方が災害の被害・復旧・復興のあり方を規定。

18

地域にとって災害とは？

- 災害の発生が、地域の形成要因の一つとなる。
  - 再開発事業
  - 住宅の再建問題
  - 人の移動
  - 産業の変容

19

災害と地域とは
相互に影響を与えあいつつ展開

→震災前・震災・震災後をそれぞれの地域性を踏まえて、かつ連続的に捉える必要性。

20

- 災害を地域のあゆみの中に再度落とし込む。
  - 従来の展示では地域のあゆみから切り離されて提示。

21

資料室の取り組み

- 地域の形成のあり方（≒地域性）を明らかにした上で、
  - 震災の発生
  - 被害のあり方
  - 復旧・復興のあり方
- をそれぞれ展示する。

22

2010年度企画展

- 「戦後神戸のあゆみと阪神・淡路大震災」
- 〈展示の意図〉
  - 戦後神戸市の各地域（特に長田区と東灘区）のあゆみを社会面・経済面から概観。
  - その上で、震災の被害のありようがそれぞれの地域性とどのような関連があったかを展示。
  - さらに、震災後の復旧・復興を経て地域性がどのように変容したかを展示。

23

2010年度企画展の成果

24

2011年度企画展

- 「兵庫と水害」
- 〈企画の意図〉
  - 大震災のような「一回性」の強い災害ではなく、連綿と兵庫県を襲い続けてきた災害である水害をテーマに設定。
  - 水害の発生と地域性との相互規定性を明らかにする。

25

2011年度企画展の成果

26

展示手法の工夫

- 展示導線
- キャプション
- その他

27

地域性を展示に取り込むこと

- 前述の通り、センターには被災地から幅広く収集された民間出所の資料が多数ある。
- 震災の被害のあり方、復旧・復興のあり方を地域性と関連づけて提示することは、ある意味でセンターの強みを生かすことでもある。
- 防災目的という観点からも阪神・淡路大震災を災害一般の話として提示するのではなく、むしろ阪神・淡路という「特殊な」成り立ち方をもつ地域で起こった「唯一無二の」災害として描くことで、本当の意味で教訓を得ることができるのではないか。

28

ところで

- 2010年と2011年の企画展の間には東日本大震災が発生。
- 当然、センター資料室としては東日本大震災を企画展のテーマに設定する選択肢もあった。

29

ただし

- 上記のような目的意識から、阪神・淡路大震災の被災地域の地域性を所蔵資料から抽出することはできても、東日本大震災の被災地域を事例とすることは難しい。
- 安易に地域性などを把握しないまま、東日本大震災を題材とした展示をすることは単なる災害・防災一般の展示をしてしまう危険性。
  - 資料所蔵機関としての人と防災未来センターの存立意義にかかわる。
- あえて忌避。

30

Ⅲ　他機関との連携

31

阪神・淡路大震災を地域のあゆみの中にもう一度落とし込むために

- 人と防災未来センター資料室所蔵資料だけでは不十分。
  - 所蔵資料は「震災資料」に限定。
- 「震災資料」を、「震災資料」以外の資料と関連づけること≒阪神・淡路大震災を地域のあゆみの中に落とし込む作業。
  - 「震災資料」を特殊な資料でなくすこと

32

他機関との連携

- 2010年度は15の個人・団体・企業・資料所蔵機関と連携。
- 2011年度は25の個人・団体・企業・資料所蔵機関と連携。
  - 震災資料のみを切り離して収集・保管する機関はあってよいと考えるが、その機関だけで活動を完結させるのではなく、地域の資料を持つ他機関と積極的に連携する必要性があると考えている。

33

Ⅳ　おわりに

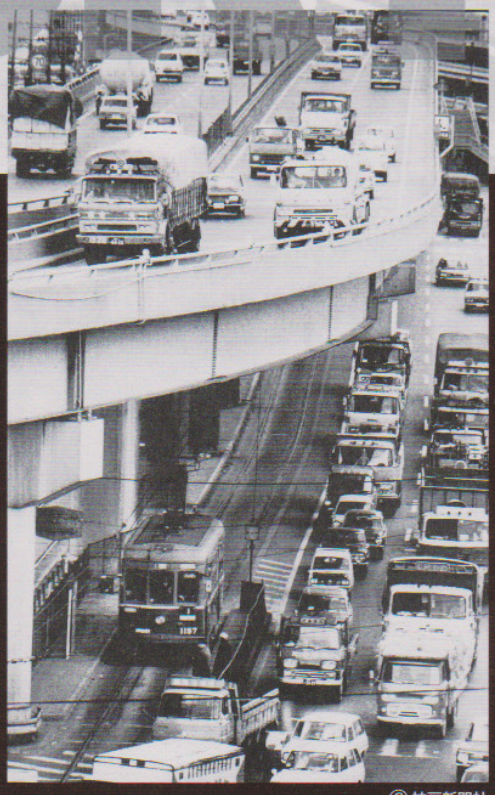
34

人と防災未来センター資料室　2010年度企画展

戦後神戸の歩みと阪神・淡路大震災

敗戦、復興、「成長」、そして震災…

© 神戸新聞社



© 神戸新聞社

MODERN HISTORY & DISASTER

2011.1.12(水)～2.13(日)

月曜休室（ただし、1月17日（月）は開室）
＜開室時間＞　9:30～17:30

阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター
資料室（西館5階）　お問い合わせ：TEL：078-262-5058

入場無料　資料室のある5Fは無料ゾーンです。

人と防災未来センター企画展
Flood Disaster in HYOGO Prefecture

兵庫と水害

たび重なる水害
とのたたかいの歴史

水害を
どう乗りこえよう
としてきたのか

2011.
10.4（火）
▶12.4（日）

人と防災未来センター西館2階
防災未来ギャラリー（有料ゾーン）

休 館 日：毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日）
開館時間：9:30～17:30（入館は16:30まで）
金・土曜日は9:30～19:00（入館は18:00まで）

阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター
〒651-0073　神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
http://www.dri.ne.jp/

■ お問い合わせ
資料室（西館5階）
TEL：078-262-5058
資料室の開室時間：9:30～17:30（金・土曜日を含む）